

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1960
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.53, No.2 (1960. 2)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19600201--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雜誌

慶應義塾経済学会
二月号

<p>第一次ロシア革命（一九一七—一九一九年）の ドイツに及ぼした影響……………飯田 鼎（五） ——ドイツ社会運動史にかんする最近の資料（三の二）—— 書評及び紹介 経済学関係文献目録</p>	<p>資料</p>	<p>「常数」と主観価値論……………持丸 悦朗（四） ——M・ドップの価値論観の一考察——</p>	<p>賃金と労働時間較差の年齢別特性……………小尾 恵子（六） 佐野 陽一（六）</p>	<p>共産主義移行論……………気賀 健三（一）</p>	<p>論 說</p>
--	-----------	---	--	-----------------------------	------------

第五十三卷 第二号

昭和三十五年二月二十四日
昭和三十五年二月十三日
昭和三十五年二月十三日
昭和三十五年二月十四日
発行所 慶應義塾
第三種郵便物認可
毎月一、九〇三号

昭和三十五年二月二十四日
昭和三十五年二月十三日
昭和三十五年二月十三日
昭和三十五年二月十四日
発行所 慶應義塾
第三種郵便物認可
毎月一、九〇三号

三田学会雑誌

昭和三十五年一月号

定価 金九〇円（送料別）

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 53, No. 1

January, 1960

CONTENTS

The Shift in the Pattern of India's Balance of Payments.....	page <i>K. Yanaihara</i> (1)
The Structure of Labor Force in Japan (1).....	<i>I. Ozaki</i> (24)
Documents and Materials of the History of German Working Class Movement (1/3) Die Einwirkungen der ersten russischen Revolution von 1905~1907 auf Deutschland, herausgegeben von Prof. Dr. Leo Stern, 1954.....	<i>K. Iida</i> (64)
William Godwin Bibliography (2).....	<i>A. Shirai</i> (85)
Reviews and Notes	

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI
(The Keio Economic Society)
Editorial communications to be sent to
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,
Keio-Gijuku University,
Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
Price 90 yen

書評及び紹介

E・ズルツ著

『快樂の礼讃』……

渡辺和一郎(七)

O・ウイルソン

『重商主義——解釈の変遷——』……

渡辺国広(三)

共産主義移行論

氣賀健三

ソ連の経済学界において、近年しきりに共産主義移行論が取上げられている。ソ連の現在の発展段階は、社会主義の体制を完成し、共産主義への移行を準備している段階であるというのが、この国の公式の見解である。去る五六年の第二〇回共産党大会において議せられた第六次五年計画は、共産主義の建設の偉大な事業を遂行するものと明言せられている。フルシチョフの言葉をかりるならば、ソ連は「共産主義社会という終局の目的への途上において、広大な地平線がすではっきりと望見しうる山の高所に登りついたのである」。ブルガーニン⁽²⁾は、第六次計画を説明するに当ってこう述べた。「われわれは、重工業の優先的發展にたいするレーニンの総路線を確固不屈に推進することによって、全世界史的な勝利を収めた——すなわち、過去において立ちおくれた農業国を、高度に機械化された大農業をもつ第一流の工業国たらしめ、社会主義社会を

共産主義移行論

建設し、一步一步着実に共産主義に向って前進しつつある。」⁽³⁾第二十二回の臨時党大会が五九年一月に開かれたとき、七カ年計画の課題を規定して、フルシチョフは、「共産主義の物質的・技術的基礎の設定」をうたい、資本主義諸国との平和的経済競争において決定的な勝利にむかって前進することをきわめて明瞭に宣言したのである。フルシチョフのこの声明は、共産主義社会の実態について、いくつかの具体的説明をともなっている。ソ連の今後の経済的發展の方向や、その経済政策のありかたについて、客観的な判断の資料を提供している。元来、共産主義の未来像を想像することは、人間の夢を描くようなもので、社会科学の対象とするには、あまりにも漠然としており、多くのマルクス・レーニン主義者がこれについて語る言葉は、ひっきょうするに、宣伝の一つにすぎないか、千年王国の信仰にとどまるという印象が、マルクス批判者の一般の通念であるといつて